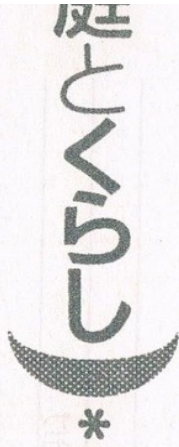
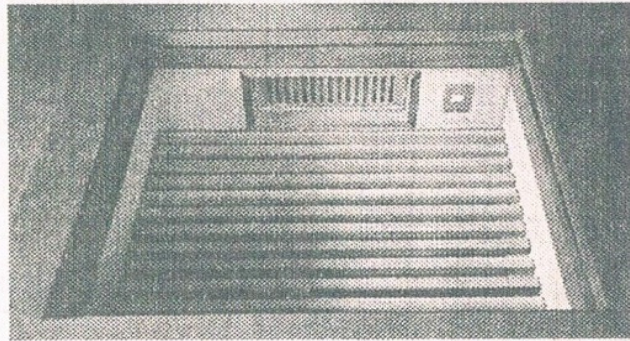


[掘りこたつ] 掘りこたつは、一時人気がありましたですがすっかり影が薄くなり暖房はエアコンなどによって替わられています。しかし、最近ダイニングこたつタイプで復活の様相。また、3.11以降の節電需要の高まりを受け、再注目されて販売数が上昇とか。この記事の一つは、以前設計したお宅の掘りこたつを工夫した内容について88年11月8日読売新聞に掲載されたものです。置きこたつは足がつかなくなることから、床にこたつを埋め込むことにより椅子に腰かける姿勢で足が楽になるということから大人気でした。この記事では、夏場の室内の換気と湿気対策に、掘りこたつの壁面に開閉式の換気口を取り付けると効果が上がるという話です。

さらにその効果として、住宅の床下は温度が低いことから涼しい空気になっていますので、その空気が掘りこたつの通気口から流れ込み、こたつ内が涼しく感じられ夏場不要になる「こたつ」も生きてきます。



三角の住居部分に水まわり配置



掘りこたつ側面の2方向に換気口

アイデア2題

洋間には換気できる掘りこたつ



住みやすさは、ちょっとしたアイデアが決める手になるが、建築家の植木秀樹さんが設計した住宅(埼玉県川口市)には、間取りとインテリアに面白い工夫が生かされている。



重厚な感じの岩谷堂たんす

敷地は、四角形に三角形を継ぎ足したような形で、三角の部分に面して道路が走っている。「変形した狭い土地を有効に使うには、建物も土地

重厚な感じの岩谷堂たんすを指定されている、岩手県の岩谷堂たんすもその一つ。表面に漆塗装を施し、鍔物や手打ちの金具を飾り金具としてあしらった、時代劇に出てくるような純然たる和風の家具。材質はけやきで、重厚さが特徴だ。

純和風のたんすで洋間にアクセント和家具を洋間に——そんな取り合わせの楽しみ方が関心を集めている。二百年近い歴史を持ち、通

インテリアでは、洋間に換気もできる掘りこたつを取り付けて、冬場はこたつ、夏場は部屋の湿気防止に利用している。

換気口は、こたつの側面の2方向に開けてあり、建物外壁の床下換気口に通じている。開閉が自由にできるのも、冬は熱を逃がさず、夏は部屋の湿気を取り除くことができる。

「この住宅の場合は、上から見て三角の住居部分に浴室、トイレなどの水回りを持ってきた。道路に面しているため配管がしやすく、住まいへの騒音を軽減できることが、一工夫してもらいたい」と植木さん。

「間取りは、住みやすさを大きく左右する。土地の形や隣家との距離、日照などを考えて、暮らしやすい間取りを工夫してもらいたい」と植木さん。